



BHAKTI NOTE

憶念と探究

LOVE ALL SERVE ALL
HELP EVER HURT NEVWR



愛によつてもたさされる神性

1987年クリスマスのババの御講話



真理は
時間や空間と
いうカテゴリーを
超えている。



真理を求め
る人々の間には
顕著な違いが
存在する。



違いは宇宙の本質に影響を与える
ものではなく、違いこそが統一的
な原理を探求し続けることを促し
てきた。



究極の真理は一つ



基本はアートマ
アートマは無限

アートマ＝神霊/真我
～ 六派哲学 ～

唯物論的な教義とは真逆の
アーディヤートミカ
〔アートマに関係する〕
の見解を投じた。



物質を動かしているのは意識

ジャダ (物質) を活性化
しているのはチャイタニヤ
(意識 / チャイタンニヤ)



人間は、
ナラからナーラーヤナへと
進歩しなければならぬ。

ナラ (人間) から
ナーラーヤナ (神) へ



人間は自分自身の思考と欲望に
捕らわれている



人間は、

宇宙のすべてのものは神から来ていて、神の力なしには存在できない。ということを理解していない。



宇宙は、
永遠なるものである無限の實在の
投影であり、ブラフマンとは別の
ものではない。



人が知覚したり経験したりするもの
すべてが神の顕現である。



神は誰からも何も必要としない。



欲望や嫌悪感を取り除いたとき、
私は自分が生来持っている神性に
気づく。



人類は、
すべての人間に内在する神性を認識
することにより、人類の一体性とい
う理想を目指して努力すべき。



人々は、神の本質を真剣に探究し、
真実に基づかない迷信的な信仰を
一掃するよう努めるべき。



人々が求めるべきことは、
神の愛を得ること。



キリストは、
神は愛によつてのみ悟ることが
できると明言した。



眞実は愛から生まれ、
愛は神への信心から生まれる。



信あるところ、

愛あり

愛あるところ、

平安あり

平安あるところ、

真実あり

真実あるところ、

至福あり

至福あるところ、

神あり



ハートはイー
シュワラ

その意味は、ハートは人間の
内にあるアートマ原理を
象徴している



ハートはシヴァ神

(霊的な) ハートは
人間の内にあるアートマ原理
を象徴している



心は
ヴェ
イシ
ユ
ヌ
神

(靈的な) ハートは
人間の内にあるアートマ原理
を象徴している



心がハートから生じたように、
ヴェिशユヌの原理は
イーシユワラの原理から生じた。



ブラフマーは
ヴェシユヌから生じた。



人間においては、
心からアハム（自我）が生じ、
ブラフマーはアハムの象徴。



シヴァ ▼ ヴィシュヌ ▼ ブラフマー
これが三位一体の神の深遠な解釈
であり、三位一体の神は誰の中に
も存在する



ハートは、イーシユワラ
マインドは、ヴェイシユヌ
私は、ブラフマー



自己をブラフマー神と見なせば、
思考と行いは道から外れなくなる。



心は、
中にある不純物を取り除くこと
により解脱を得る手段となる。



すべての霊性修行は
心を浄化するためだけにある。



心が清らかになれば、
おのずと神を経験することができる。



神は私と別のものではない。私は神。
この確信が私の中で大きくならな
ければならない。



最初、イエスは「私は神の使者です」と明言した。次に、イエスは「私は神の子です」と言い、最終的に、イエスは「私と私の父とは一つです」と断言した。



こうした過程を経て、
キリストは神との一つになることを
達成した。



今この瞬間から、
神と一つになるための旅に出なければ
ならない。



すべての努力を、
神を悟ることに傾けなさい。



そのためにはまず、
エゴをなくすことが必要。



エゴを取り除かなければ、
神性の至福を経験することは
できない。



信仰心のある人だけが、
恐怖から完全に解放される。



神への信仰を深め、
神に導かれた人生を送りなさい。



神への信仰を手放さなくても、
学問や趣味を追求することはできる。



今起こっていることは、
人々は富を追求する中で
神を忘れていくということ。



真我を悟った人は自分の人生を救い、
自分の欠点を自覚している人は祝福
され、他人の良いところを見る人も、
同様に祝福されている。



すべての人に愛を示しなさい。



自分の心をアートマに向けなさい。
アートマは無限。



「私のもの」、
「あなたのもの」と
いう考えを捨てなさい。



自分たちは全世界の守護者で
ある一なる神の子供であると
考えなさい。



三つのことを心に留めなさい。
それは、神への愛、罪への恐れ、
社会の道徳を守ること。



神への愛は罪への恐れを強め、
その人に道徳的な生活を送らせる。
この三位一体の原則は、
三位一体の神のようなもの。



その清らかさを備えて行うことは
何であれ、
神の悟りの助けとなる。



愛を育みなさい。

愛を強めなさい。

愛は神。

愛の中で生きなさい。



どのような礼拝の形でも

どのような霊的道でも

ハートを喜ばせるものは何であれ
神を喜ばせる



良心の指示に従い、
ハートを愛で満たし、
神の至福に浸りなさい。



LOVE ALL SERVE ALL
HELP EVER HURT NEVER



ハートの中心におられる神様を
絶え間なく憶念し
人類同胞愛という一体性の花を
捧げます



Jai Sai Ram